

| 自然としての陰陽

自然としての陰陽とは
夜と昼そして冬と夏（冬至と夏至）といった両極を認識することでした。

まだカレンダーも天気予報もなかった太古の時代‥

人々は冬に草木が枯れ果てると「世界が終わる」と感じ
夜、地平線に太陽が沈むと
「もう上がってこないんじゃないかな」と不安に感じました。

太古の人々にとって、日々変わる自然現象は、
恵みであると同時にとても怖いものだったのです。

ですが、暮れてもまた朝が訪れる様子や、
枯れ果てた大地にも、また草木が生い茂る様子から、

「陰陽」という概念を生み、全ては巡るということ、そして盛衰を悟ったのです。

| 陰陽とはすべての大元



| 五行の起源

五行とは、「木・火・土・金・水」（もく・か・ど・こん・すい）の
5つの気の巡りという意味です。

五行の起源については紀元前の中国に遡りますが、多くの史料が長い年月の中、
そのつど編さんされてきましたこともあり、現在ではよく分かっていません。

ただ、古くは人が生きるために必要なものを「五材」とされているなど、
いずれも「五」という数字が使われています。

なぜ五か…

太古の人々は長い年月をかけ、森羅万象のあらゆるものを観察しました。
それは季節であったり時であったり、動植物や私たち自身でもありました。
そうして得たのが、全てのものの共通性や根源的な法則だったのです。

あらゆる物や出来事、そして人やその人生も、細かくみれば複雑極まりないもので
すが、大元は“五つほど”というのがその原点です。

五行思想は「五」という数のもと、様々な書物・説・伝承がまとめられ、
今日の五行説として体系化されていったのです。

| 五行は自然の法則…五行の成り立ち

五行は、太古の人が見いだした自然の法則です。

五行と季節

冬に枯れ果てた大地も、春にはまた芽吹きはじめます。

そして夏には生い茂り、秋には衰退していきます。

陰陽が表す「冬至」と「夏至」

それに昼夜がほぼ同じ長さの「春分」と「秋分」を加え、

春・夏・秋・冬という四季の概念が生まれました。



五行と方角

日が昇る方位を「東」
日が一番高い方位を「南」
日が沈む方位を「西」
日が一番低い方位を「北」として

四方（方角）の概念が生まれました。



五行と時間

日が昇る「朝」
日が一番高い「昼」
日が沈む「夕」
日が一番低い「夜」

消えた太陽がまた昇り、沈んでいく日々の様子から
四時（時間）の概念が生まれました。



| 五行の完成

「木」

春、朝、東は、太陽が昇り進むところです。
自然界の中で、上へ上へと昇り進むもの…これを「木」

「火」

夏、昼、南は、メラメラ太陽が盛んなところです。
自然界の中で、メラメラと燃えるもの…これを「火」

「金」

秋・西・夕は、太陽が沈んでいくところです。
太陽が沈むように頭を垂れる稲穂、それが黃金色に輝く様子から「金」

「水」

冬・北・夜は、太陽が落ちて暗くなるところです。
自然界の中で、下へ下へと落ちるもの…これを「水」

「土」

中央を「土」、季節と時間では「土用」とし、五行が完成したのです。



| 木火土金水…木は樹木じゃない

五行について、木を「樹木」だとする人がいますが、「木・火・土・金・水」は、木=ウッド、火=ファイヤーではありません。

「木火土金水」の五行とは太陽が昇り沈んでいくという、一年や、一日の巡りから見いだした、自然の法則なのです。

自然界の全てのものは「5つの働き」で成り立っています。

● 「曲直（きょくちょく）」

…曲がったり真っ直ぐしながらも伸びる（昇る）こと。

● 「炎上（えんじょう）」

…上へと燃え上がる（盛る）こと。

● 「稼穡（かしょく）」

…養い育むこと。変わらないもの。

● 「従革（じゅうかく）」

…型に収まる（固まる）こと。

● 「潤下（じゅんげ）」

…下（暗いところ）へと流れること、下がる、染み込むこと。

そして、曲がったり真っ直ぐしながら昇り進むもの…といえば「木」

燃え盛るもの…といえば「火」

養い育むもの…といえば「土」

固いもの…といえば「金」

下へと落ちるもの…といえば「水」というように、

身近なもので例えたのです。

| 五行は連想ゲームじゃない

世間の占いでは、「水」だから「水商売に向く」とか、「金」だから「宝石のような…」などと言われたりもしますが、これらは全くの的外れで、五行は連想ゲームではありません。

木は樹木ではないし、金も金属ましてや“お金”ではないのです。

※五行は西洋でいう“五大元素”とは違いますし、木星や火星などの惑星でもありません。あくまでも天地の巡りとそれに伴う作用です。

| 五行を英語で表すと？

樹木や金属ではない「五行」ですが
英語であらわすとよく分かるかと思います。



| 【木】の人ってどんな人？

キーワードは「THE・人間」

英語では「soul-魂-」

木は「太陽が昇り進む象-かたち-」とされ

季節では「春」

時では「朝」

方角では「東」



太陽が昇り進む「はじまりの時」をあらわします。

「木」はその働きが良好であれば、心身が伸びやかで若々しく前向き
そして春風のように爽やかなで、春の陽のように穏やかな人です。

「木」の「はじまりの時」は

植物に例えると「芽吹きの時」

人の人生に例えると「誕生～思春期」

そんな木の人は…一言で例えるなら「思春期」です。

年齢にかかわらず若さや初々しさなど気持ちが若い反面

たとえいくつになっても「思春期」なので子供っぽさや未熟さもあります。

また、思春期といえばナイーブで敏感、繊細で神経質なところもあります。

多感多情で「心に手足がついてる」とも..

心が裸なので風が吹いても心が痛む

…「心の痛風」とも表現します。



感受性も強く人の気持ちだったり外からの刺激に敏感なぶん

精神的に疲れやすい傾向もあります。

思春期の良くも悪くも純粋な心で、データや理屈より気持ちで考えます。

「大人はズるい」「大人は汚い」という年頃なので

自分が大人になっても同じで大人の事情や忖度などは苦手です。

恋愛においても同じで、過ぎればメンヘラな傾向があります。

適職においても「勝った」「負けた」や「当たった」「外れた」

「成果が分かりやすい」などまっすぐで単純で純粹な職業や環境に向きます。

「思春期の子なら...？」と想像すれば分かりやすいでしょう。

「新しい・始まり」ということから、物事の始めなど、新しい風が必要で
淡々とした日々やかわり映えのないこと惰性でこなすような事は苦手です。

「始まり」というだけに「新学期だけノートが綺麗」そんな人も多いです。

●五常は「仁」

五常とは、木火土金水それぞれが持つ「徳」や人間性のこと

木は「仁」とされ「情」の事です。

一番には愛情ですが、そのほか人情や友情、感情純情、温情、心情などなどの人の「情」です。

ただし良い面と悪い面は必ず表裏一体なので

良い面では…「情がある」「情に厚い」「情が深い」

悪い面では…「感情的で怒りっぽい」「情にほだされやすい」となります。

●五色は「青」

ブルーアワーやトワイライトブルーと言われる、夜明け前の青い時間帯の色

「もう夜が明ける」そんな清々しさがある反面

まだ明けきっていない朝方は不安定で敏感な様子を映し出しています。

●五志は「怒」

ブンブン、イライラだけでなく、怒りとは奮起のパワーでもあります。

春芽がグッと伸びていくパワーは「やる気・元気・木氣」といい

怒りすぎはよくないですが、あまり怒らないのもやる気のなさに繋がります。

●五候は「風」

春風や春一番など、春は風の季節。風は万物の目覚めのスイッチです。

慣れや惰性などでやる気が出ない時には

風に当たるとまたやる気スイッチが入ります。

●五臓は「肝」

肝が乱れると

イライラ、気鬱、不眠などの疾患や、こむら返り、肩こり、眼精疲労など、**痙攣性・緊張性疾患**にも注意が必要です。

漢方でいう解毒体質（肝臓の解毒機能低下により炎症、化膿傾向、皮膚病など）で解毒体質は卒中体質ともいわれます。（脳梗塞、脳出血など）

また、「木」は「土」を剋す（抑える）ので、「土」の消化器系疾患などにも注意が必要です。

| 十干の陰陽の違い

あくまでも十干の働きの「イメージ」なので、連想ゲームはしないで下さいね。

・甲は竹

春・朝・東など太陽が「昇り進む」働きなので
屋根でも突き破る竹のように真っ直ぐな生き方、考え方、言動となります。
迂回したり、工夫するなどは苦手で猪突猛進なところがあります。
よく言えば純粋、純朴、悪く言えば知恵がないとも。



・乙はツタ

同じ太陽が「昇り進む」働きでも、そこに陰の働きがあるので、
障害物があれば避けたり遠回りしたり工夫したりと柔軟です。
甲のように突き進めない分、あの手この手で進むので
「しつこい」「しぶとい」悪い場合は「ずるい」など。



強い日差しや雨に弱いように、甲より神経の細さや繊細さがあります。
「木」は思春期ですが、甲は中二の男子、乙は中二の女子のイメージです。

※木に限らずどの五行も、陽より陰の方が知恵が働く（悪い場合は悪知恵も）

・丙は太陽

太陽は人に頼まれた訳でも誰かの為でもなく、
自身が勝手に燃えているわけですから、
良いも悪いも自分次第、悪く言えば自業自得であることが多いです。



また、惑星が太陽を中心に周るように、家庭なり会社なり丙が1人居れば
丙の人を中心物事が周るので、丙の人間性が吉凶を決めるとも言えます。
空に太陽は一つでいいので孤独な人が多く、たとえ周りに人が多くても精神的に孤独を感じやすい傾向があります。

| 生年月日時と陰陽五行

まずははじめに干支とは？

皆さん「干支-えと-はなに？」と聞かれたら、なんと答えますか？
ほとんどの人は「午-うま-」とか「寅-とら-」と答えるでしょう。

ですが本来「干支-えと-」は「干-かん-」と「支-し-」のセットを言います。

まず「支」とはご存じ、
「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の十二支（じゅうにし）のこと、

「干」とはあまり聞き慣れないかも知れませんが
「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の十干（じゅっかん）をいいます。

☆干支は「木火土金水」の五行とその陰陽を表した数詞です。

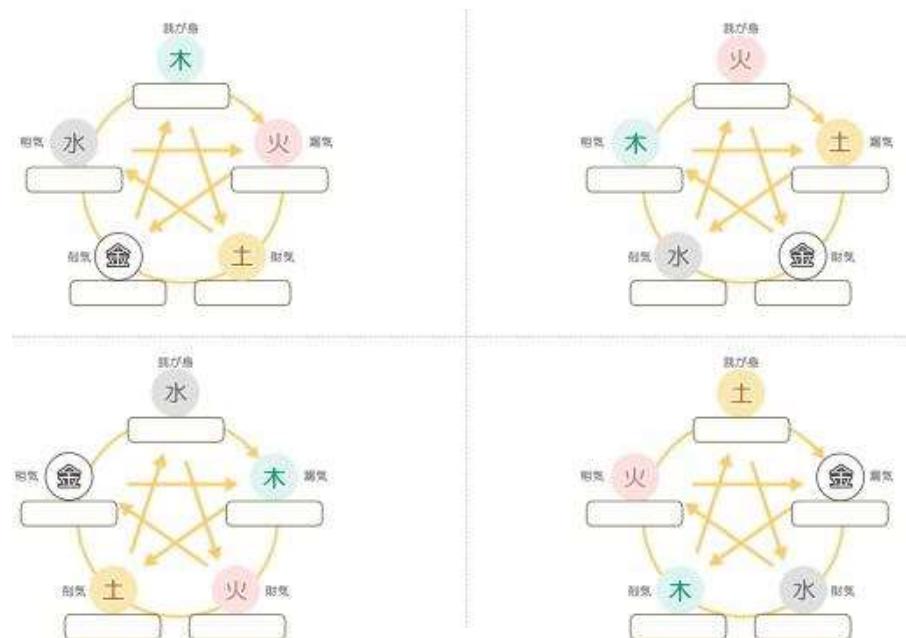
十干の読み方と陰陽五行

木	陽⇒甲 (きのえ) 陰⇒乙 (きのと)
火	陽⇒丙 (ひのえ) 陰⇒丁 (ひのと)
土	陽⇒戊 (つちのえ) 陰⇒己 (つちのと)
金	陽⇒庚 (かのえ) 陰⇒辛 (かのと)
水	陽⇒壬 (みずのえ) 陰⇒癸 (みずのと)

十二支の読み方と陰陽五行

子 (ね)	陽水
丑 (うし)	陰土
寅 (とら)	陽木
卯 (う)	陰木
辰 (たつ)	陽土
巳 (み)	陰火
午 (うま)	陽火
未 (ひつじ)	陰土
申 (さる)	陽金
酉 (とり)	陰金
戌 (いぬ)	陽土
亥 (い)	陰水

⇒我が身の五行によって、それぞれ下記のようになります。



| 上下左右のタイプ

まず大きくは下記のタイプがあります。イチロー選手は上に偏ってますよね。

【上タイプ】

理想的で精神的

【下タイプ】

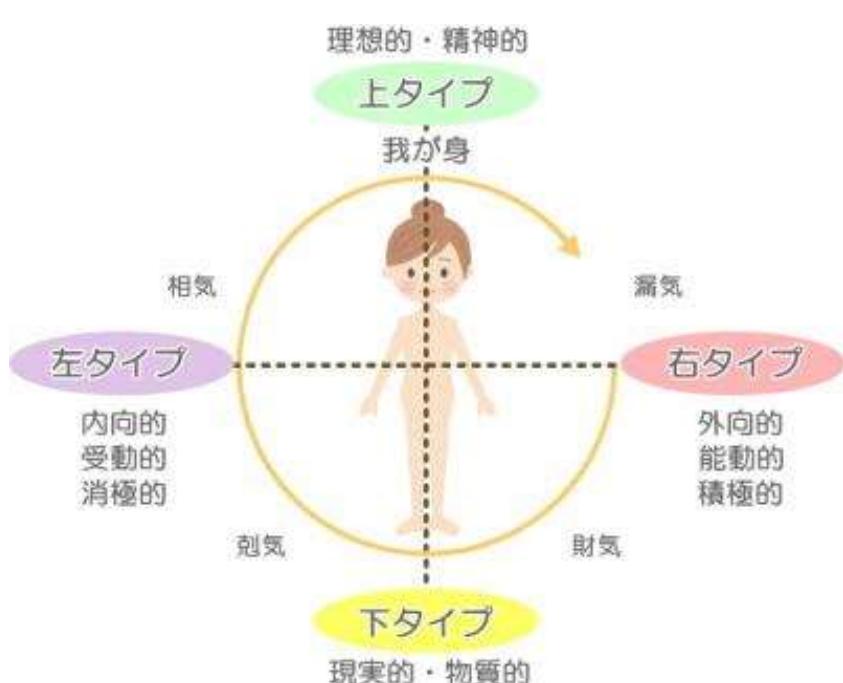
現実的で物質的

【右タイプ】

アウトプット型
外向きで考えるより
まずは動くタイプ

【左タイプ】

インプット型
内向きで動くより
まずは考えるタイプ



◆相気と漏氣の上タイプ

⇒価値観や生き方が理想的で精神的です。

スポーツ・芸術・音楽・技術・学術・研究・職人・専門家

…そのほか、

自分の好きなことや納得することに関わって生きたいタイプで、
地に足をつけるといった、堅実で地道な暮らしには不向きです。

会社員や公務員、そして「フツー」に結婚をして子供を生んで…

そのような「フツー」の暮らしの中では、生きにくい傾向があります。

そのかわり何かしらのプロとなると上タイプが多く、生活のことなど
「フツー」にベクトルが向かない分、なにかに特出する人が多いです。

女性も男性も、妻や夫・母親や父親といった役割には向きません。

そこを受け入れ割り切れば、自分らしい幸せな人生となります
が、無理に「フツー」を求めたり「周りのみんな…」と比べたりすると、
うまく行かなくなります。

様々な悩みも、**自分の気持ちによる問題**が主なので、安定を求めるの^であれば、お金や生活など、現実的なことを意識することが肝心です。

◆剋気と財気の下タイプ

⇒価値観や生き方が現実的で物質的です。

下タイプは例えば「やりがいや生きがい」と悩むより、お給料がいいとか
安定している、生活のために…など、現実的なことを優先します。

様々な悩みも、お金のことや子供のことなど家庭・生活の中でのことが主で、
堅実にお勤めをし、「普通」の生活を営みますので、だいたいは大きな波乱の
ない安定した人生を送ります。

ただほとんどの場合、特別な才能はなく（あったとしても生活を優先する）
安定とは言い換えれば**刺激のなさ**にもなり、凡庸な人生にもなりがちです。

そのため、実生活の中で楽しみや喜びを見いだせない場合は、人生に退屈して
不倫などに刺激を求めてしまう傾向もあります。

| 我が身の働き

我が身があらわすのは「自我や想い・念・意識」などの強さで、
我が身が強いとそれらが強く、我が身が弱いとそれらも弱くなります。

我が身が強いのと、気が強い・メンタルが強いというのは関係ありません。
我が身とはあくまでも内面の「自我や想い・念・意識」の強さです。

例えば「嫌だ」とか「好き」だとか、「悔しい・腹が立つ・嬉しい・楽しい・悲しい」など、我が身が強い人はそんな“想い”を人より強く感じます。

良い感情なら喜ばしいですが、嫌な感情だと“頭では分かっていても”
“理屈はそうでも”…でも気持ちが納得できない自分が“しんどい”わけで、
普通に暮らすには、我が身が強い人ほど生きにくいかもしれません。

自分の気持ちというのは、あくまでも「自分の感じ方」です。
何かを学ぶにしても、何かを指摘されても、我が身が強いと「我」が邪魔をしてす
んなり入ってきませんし、すんなり受け入れられません。

実際に我が身の強い人は、相談の中でも「分かっているけど納得できない」「気持ちが…」ということをよくおっしゃいます。
ですから我が身の強い人は、その想い・エネルギーをうまく発散できる環境がないと怨念が強まります。

我が身とはスポンジのようなもの…と言っており、
我が身が強い人はスポンジが想いで既にパンパンなので、
なかなか浸透していきません。

ポタポタ一滴一滴と落ちた分しか入っていかないので、
やっと浸透したころにはもう手遅れということもあります。



逆に我が身が弱い人は、まだスカスカなので
どんどん吸収出来るのです。



とはいって、悪いことも吸収しやすいので
吉凶の影響を受けやすくなります。
我が身の弱い人こそ、今の環境が良いものかよく考えたり
人との相性や年運などの吉凶をよく知ることが大事です。

| それぞれの定位

ここまでで、

- ◆ 「我が身」の五行とその陰陽から、⇒自身の気質・体質
- ◆ 強い五行・五行象から、⇒性格や個性、その人の特徴
- ◆ 無い五行・五行象から、⇒弱いところ、苦手なこと
- ◆ 上下のタイプ、左右のタイプから、⇒おおまかなタイプ
- ◆ 生剋での、⇒より絞った見かた

これらを見てきましたが、
生まれた「年・月・日・時間」にも、
「定位」と呼ばれるそれぞれの意味があります。

年	<親の定位>…育った環境
月	<社会の定位>…人生観や適職
日	我が身／配偶者の定位
時	<晩年の定位>…晩年運や物事の結果

<親の定位が表すこと>

親の定位は、育った環境・親との関係・目上との関係を表します。
どう育ったか…厳しかったとか、過保護だった、兄弟が多い、一人っ子など…
また「三つ子の魂百まで」という様に、育った環境によって、
どう性格が形成されて今に影響しているかもわかります。

親の定位が強く、後述の社会の定位（社会運）が弱い場合は
自分でことを起こすよりも、親のレールに従うなど頼るほうが良いです。
逆に親の定位が弱く、社会の定位が強い場合は、「親が頼りになりません」

ただし、親の定位はあくまでも自身の生まれ持った五行なので
あくまでも「本人から見た」「本人が感じた」ものです。

親が頼りにならないといつても、それは本人にとってそうなだけで
親自体は普通のきちんとした親だったりもします。

| 陰陽から相性を知る

さて、「相性」にはまず**陰陽の相性**があります。

陰か陽かという簡単な物ですが、一番根っここの部分・肌感として相性を判断するのにとても役立ちます。

⇒「配偶者の定位」が「陽」の場合

我が身が「陽」の相手を好み、それが相性のよい相手です。

⇒「配偶者の定位」が「陰」の場合

我が身が「陰」の相手を好み、それが相性のよい相手です。

これは男女ともに言えることで、**陰陽の働き**が根っこにあります。

配偶者の定位が「陽」の人は、積極的でカラッと乾いた性格の人を好み、配偶者の定位が「陰」の人は、受け身でしっとりとした人を好みます。

例)				配偶者の定位は「庚」 「陽」なので 我が身が ↓↓↓ 甲・丙・戊・庚・壬 いずれかが相性の良い相手	
甲	癸	乙	庚	丙	癸

例)				配偶者の定位は「丁」 「陰」なので 我が身が ↓↓↓ 乙・丁・己・辛・癸 いずれかが相性の良い相手	
甲	癸	乙	丁	丙	癸

<実際の相手の「陰陽」が違う場合>

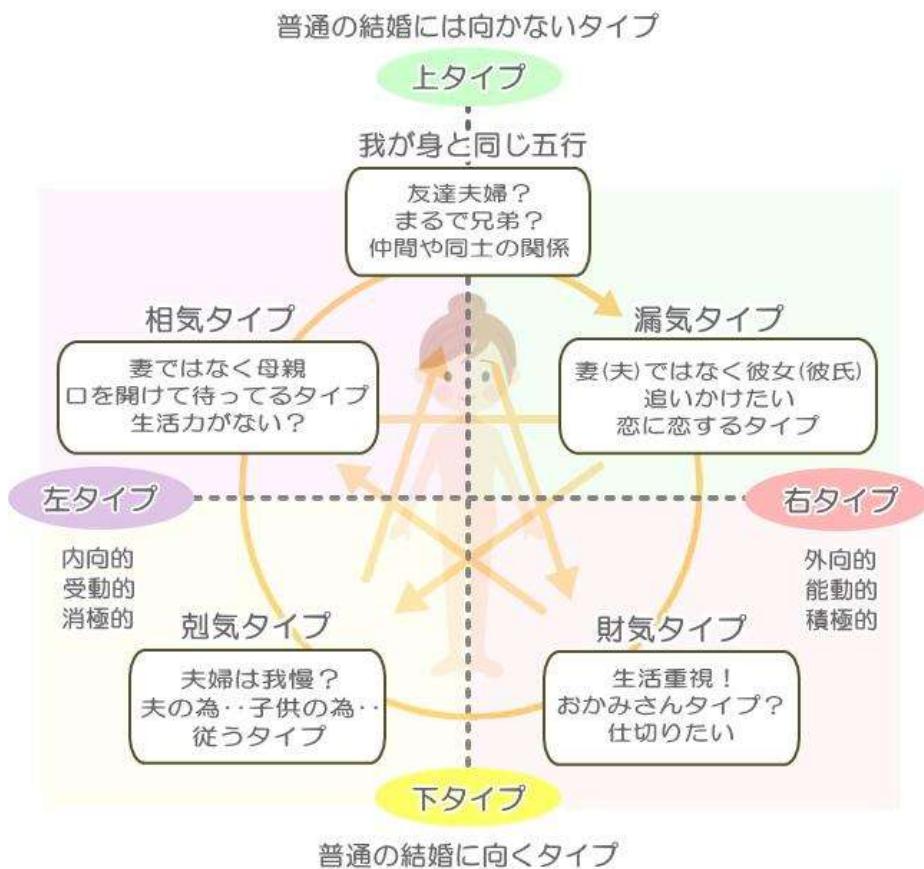
⇒「陰」を好むのに相手が「陽」なら

やたら暑苦しく感じたり、ガサツに思えたり、色気を感じない、女らしくない…など、「陽」の特徴を不快に感じてしまいます。

逆に

⇒「陽」を好むのに相手が「陰」なら

陰気に感じたり、ネソネソしてる、ジメジメしてる、男らしくない…など、「陰」の特徴を不快に感じてしまうのです。



配偶者の定位が「我が身と同じ五行」

兄弟や友達といった対等な関係を好みます。実際に幼馴染や同級生、サークル仲間などにも多く、また、収入も変わらないなど「女だから男だから…」といった区別を持ちません。なので女性の場合はバリバリ働くなど「男性に食べさせてもらおう」と考えない自立した人が多いですが、逆に女性的な従順さや受身的な部分はあまりないでしょう。男性の場合も対等なだけに、女性として扱ってくれない傾向もあります。お互い言いたいことを言い合うような関係を好みます。

<女性の場合>

我が身が「陰」で、配偶者の定位が「陽」の場合は、自分が妹、相手が兄
 我が身が「陽」で、配偶者の定位が「陰」の場合は、自分が姉、相手が弟
 といったイメージです。

<男性の場合>

我が身が「陰」で、配偶者の定位が「陽」の場合は、自分が弟、相手が姉
 我が身が「陽」で、配偶者の定位が「陰」の場合は、自分が兄、相手が妹
 といったイメージです。